



137 真南に位置する庭には芝が張られ、ふかふかと気持ちがいい。子どもたちはリビングから裸足のまま飛び出し、元気に走り回る。



上/窓を開け放つとデッキとつながり開放感が増す。下/玄関からリビングへの戸にはご主人セレクトのステンドグラスが。

茨城県 柴木材店 飯沼邸

子どもが裸足で駆け回る 寒さ知らずの快適な我が家

1年中エアコンに頼らず、冬も半袖、裸足で過ごせる。

健やかでエコな暮らしを望んだ飯沼さん一家が手に入れたのは、自然の力を体じゅうで感じられる住まい。

写真=川辺明伸

「太陽エネルギーの素晴らしさを日々実感しています」。目を輝かせ、口々にそう話す飯沼さん夫妻。1年を通して、できるだけ電気を使わない生活を実践している。

一家が暮らすのは茨城県常総市のゆつたりとした住宅街。二人の娘に将来子ども室が必要になるだろうと、家を建てることに。たまたま出かけた見学会でOMソーラーに出会ったという。もともと床暖房を入れたいと考えていたご主人。足元の暖かさが自然エネルギーで得られることを知り、俄然興味が湧いた。

そのときOMソーラーのよさを教えてくれたのが、茨城県下妻市の柴木材店だった。同社はその名の通り、材木店からスタートした工務店。地元八溝をはじめ、国産の良質な木材を使い、それぞれの材の持ち味を生かした木の家づくりをモットーとしている。同社の営業担当・柴雄二さんのすすめでOB宅を訪問し、実際にOMソーラーの温風に触れたとき、興味は決意へと変わった。「これは絶対に入れよう。まさに百聞は一見に如かずでした」とご主人は振り返る。

兄弟が多いご主人の来客が増えることも考慮し、リビング・ダイニングを中心に据えたのびのびとした空間に。脇にある和室も含めて、一体の空間として使える。また、広めにとったデッキを通してリビングから



右/ロフトのある子ども室は間仕切りも可能。 左/2階の物干し場。薪ストーブの温風で洗濯物がすぐ乾く。



手前に飯沼さん一家。後方は営業担当の柴雄二さん。現在でも、冗談を言い合えるようなよい関係が続いている。

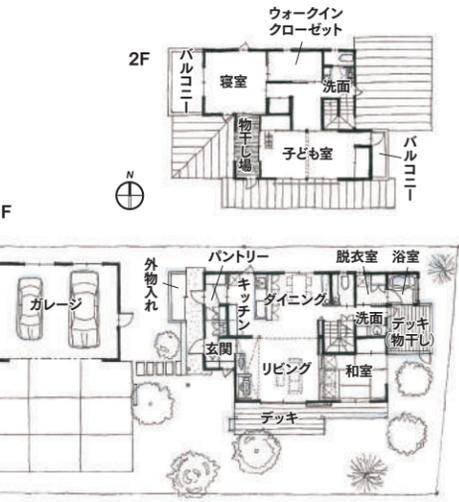
建築データ

所在地：茨城県常総市
 家族構成：夫婦+子ども2人
 敷地面積：379.26㎡
 延床面積：172.64㎡（1階79.08㎡ 2階53.82㎡ 車庫39.74㎡）
 竣工：2015年10月（工期2015年2月～10月）
 設計・施工：傑柴木材店
 構造形式：木造軸組在来工法

主な外部仕上げ：
 屋根＝ガルバリウム鋼板 軒天井＝杉板、珪酸カルシウム板
 外壁＝そとん壁、杉板
 主な内部仕上げ：
 天井＝檜板、EP塗装 壁＝クレイペイント、檜板 床＝杉板



右/落ち着いた雰囲気の外観。 左/2階洗面台のカラフルなタイル。毎日使うのが楽しくなるような、可愛らしい色合い。



リビングの片隅にある薪ストーブはパーメントキャストिंगス社のアンコールを選んだ。

庭へとゆるやかにつながり、開放的だ。子どもたちはリビングや和室からデッキ、庭とあらゆるところに遊び場を見つけ、これまでより活発に動き回っているそう。

やわらかな杉とじんわりとした暖かさに包まれる

飯沼さん夫妻が最もOMソーラーのよさを実感するのは冬の朝だという。リビングの一角にある薪ストーブも一役買っている。「寒さでブルブルッ、というのがなくなっただのは本当に嬉しいですね。それに、薪ストーブの熱が残っているのか、朝もじんわり暖かいです」と、奥さんも大喜びだ。ご主人も、「床がやわらかい杉ということもあって、暖かさがより気持ちよく伝わる気がします」と続ける。エアコンのように風があたったり、熱が一カ所に溜まったりすることもなく、家全体がほんのり暖かいというのが心地よさにつながるようだ。

冬の暖かさはもちろんのこと、夏も外より涼しく風通しがよいので、思ったよりエアコンを使わずに過ごせるのは嬉しい驚きだった。1年を通して光熱費も格段に下がったそう。柴さんも、「OMや建物の性能だけに頼らず、窓の配置や軒の出など設計上の工夫で快適さを高めています」と話す。

この家に住み始めて9カ月。環境にやさしく心地よい我が家で、満ち足りた暮らしを送る飯沼さん一家の笑顔があった。



和室はリビングとの関係を考慮し、低めに設定。子どもたちが自由に遊び回れるようにと、リビングにはソファを置いていないので、大人数の来客にも対応しやすい。



ダイニングではいつも笑い声が絶えない飯沼さん一家。向かって右側にはスタディスペースがあり、長女はここでよく勉強や作業をしているのだとか。